

校歌は時代の反映？

県立熊本第一高校校歌が昨今話題を呼んでいる。同校校歌は前身である旧制熊本女子師範学校の伝統を継承したせいか、歌詞には「純潔」とか、「清き操」のような女性特有の言葉が盛られている。戦後同校は男女共学校となったが、その当時は歌詞が話題に上がることもなかった。ところが、昨年まで34年間も入学者がいなかった男子生徒が今年になって一挙に70名も入学した途端、これを機会に歌詞を変えたいと主張する年配のOBと、その必要はないというOGとの間で一騒動持ち上がっている。

それとは別に、最近の朝日新聞によると石川啄木や宮沢賢治らを輩出し、130余年の伝統を誇る文武両道の名門校・岩手県立盛岡第一高校には、かつて同校校歌が公に物議を醸したハプニングがあった。同校は1968年硬式野球部が夏の甲子園に出場し、1回戦で勝利を収めた。その直後、校歌が演奏された瞬間スタンドはどよめき、しばらくして哄笑がわき上がったそうである。その時甲子園で何が起こったのか？ 原因は校歌の歌詞ではなく、そのメロディにあった。

静まり返ったグラウンドに流れてきた校歌は、何と戦時中を髣髴させる勇ましい「軍艦マーチ」だったのである。流石に歌詞は♪守るも攻めるもくろがねの～♪ではなかったが、曲はれっきとした軍楽師・瀬戸口藤吉作曲による「軍艦マーチ」だった。(興味のある方は、‘YouTube’で試聴を)

何でもその昔宮古港に大型漁船が出入りする度に、港にはこの勇壮な「軍艦マーチ」が流れたそうである。それが地元の旧制盛岡中学校校歌に借用され、そのまま今日まで歌い継がれることになったらしい。今ならさしずめ隣国中国のお家芸「知的財産権侵害」で訴えられるところだろうが、明治末期のどかな地方都市では些細な盗作？ 劇なぞ気にも留められなかったのだろう。

そういえば、北原白秋作詞、山田耕筰作曲からなる母校・湘南高校校歌も中々の秀作だが、その歌詞の一部に♪～立身報国 期せよ 友よ～♪と修身教科書をなぞったようなくだりがある。入学式で初めて耳にした時、些か時代錯誤的な違和感を覚え、しばらく馴染めなかった記憶がある。

「歌は世につれ、世は歌につれ」と謳われ、その時代に流行った歌は、しばしばその時代の世相を反映していると言われるが、それは学校教育の現場でも例外ではなかったということだろう。